

備陽史探訪

第33号

発行

備陽史探訪の会
福山市西深津町7-2-7
印刷所 塩出印刷

『新年度を迎えて』

共に遊ぼう

『備探丸』

昭和六十二年度役員一同

昨年の暮より、執行部では新年度の活動方針、計画をめぐって激しい討論が行なわれた。

一番問題になったのは会の活性化である。このところ一般会員より会の活動が面白くなかった、どうしたのか、という問い合せがしきりだったのだ。

我々役員として反省しなければならぬことはたくさんあった。責任感、連体感の欠除、例会が専門的になり過ぎた等々。

そこで、役員会として決定した本年度の基本方針は次の三つである。

- 一、楽しい会にしよう
 - 二、魅力ある会にしよう
 - 三、活発に動こう
- そのためにはまず風通しの良い会

にする必要がある。執行部の改組、一般会員のアイデアを積極的に吸収する。パスツァー史蹟見学会等、会員の誰でもが気軽に参加できる例会をもっと増やす必要もあるだろう。

執行部の改組は、今迄評議会、例会実行委員会等繁雑に分割されていた会の頭脳を『役員会』として一元化し、血のめぐりをよくすることであった。こうすれば自然責任感、連体感も充実し、活発化するはずだ。

又、今まで特定の人に片寄り過ぎたクライのある例会担当者の門も大きく広げたいと思う。具体的には部会の枠にとらわれない小グループの企画立案も積極的に取り上げる。意欲ある会員には卒先して例会を担当してもらおう。こうすれば当然会の活動は活性化され、会勢も躍進するだろう。

もちろん、そのための大前提は、会員の皆さんが積極的に会の活動に参加されることである。

この一年、「備探丸」の浮沈は会

員一人一人の双肩にかかっている。充実した余暇を過ごし、知的好奇心を満足させるために、共に『遊ぼう』ではないか。

神谷和孝（会長）

田口義之（副会長・城郭部会長）

吉田和隆（副会長）

種本実（会計）

井上良三（会報委員）

後藤匡史（〃〃）

山口哲晶（古墳部会長）

七森義人（城郭副部会長）

末森清司

武島種一

佐藤洋一

中西晃

森田英夫（歴史民俗研究部会長・監査委員）

61年度会員の方へ

会報・総会資料と共に郵便振替用紙を同封します。62年度会費の納入用です。よろしくお願ひします。領収書は、追って返送します。

『城研ニュース』

No. 5

『いま中世が面白い』
中世を読む会発足

城郭研究部会

本部会では昭和六十二年事業として『中世を読む会』を企画し、去一月十六日夜、福山市民会館会議室に於て第一回目の勉強会を開催した。城郭部会は、郷土の山城を通して、備後の古代、中世史を解明していくうとして結成されたものだが、山城は実地調査によって城郭そのものの実態は或る程度解明されるものの、その山城が誰によって、いつ、何のために築かれたかはわからない。やはり、文献史料によって当時の政治社会情勢を知る必要があるのだ。しかし、中世の文書、記録は和様漢文体で書かれ、用語も難解なものが多く、初めての人にはとっつきにくい代物である。

そこで結成されたのが中世を読む会である。

今年にはテキストとして『山内首藤家文書』を使用し、月一回のペースで活動を行なう。

山内首藤家文書は備北庄原市本郷の甲山城に居城した戦国大方山内首

藤家に伝来した中世文書で、備後中世文書で、備後中世史を学ぶ場合必要欠くべからざる重要史料である。刊本であるから初心者も読み易く、中世武家文書の典型として、文書様式を学ぶためにも都合がよい。又、史料を身近に感ずるために山内首藤氏関係の史跡も見学する予定である。

(四月十九日(日)の予定です。参加希望者は田口まで)
"いま中世が面白い"といわれている。是非多くの会員に参加して欲しい。

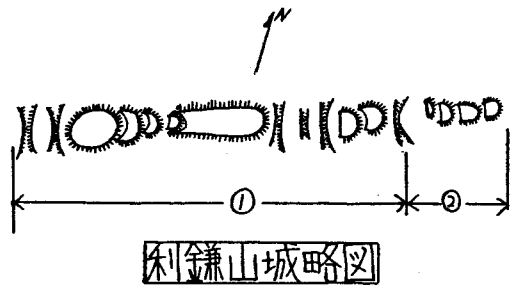
◎中世を読む会例会
毎月第三金曜日 午後六時三〇分
於福山市民会館第三会議室

※都合により変更あり。

利鎌山城調査記録

昨年より引き続き、二月八日に、後藤、佐藤(錦)、山下、田口、七森の五人で調査を実施した。利鎌山城は芦田町福田にある山城で、西に大谷城(市立動物園の付近)、麓を芦田町と赤坂町長者原を結ぶ道が通っている。

図の①が今までに調査した所であり、②が今回の調査箇所である。開始時間に遅く、郭の大きさが小さく手間どったが、空堀を一ヶ所と、郭



を四ヶ所、レベル用の起点を四ヶ所設置した。今後は此より先の郭、空堀、更に図では東西のみに郭があるが、南北の郭の有無と帯郭、塹堀、更に手側の郭の有無と、レベルを使用しての各郭の比高差を測量する予定である。

調査参加者募集中です。

(七森義人)

☆城郭部会、中世を読む会に就いて
のお問い合わせは左記まで

〒七二〇 福山市多治米町九一六

田口義之

TEL 0849 (53) 6157

会報担当者になるにあたって

井上

- まず約を3つ
- (1) 会の情報を正確に
- (2) かつ的確に
- (3) 会員の方々の総意を紙面にだします。

穴場、紹介記事など(例、私は仁徳天皇陵に侵入したことがあるとか) どんどん投稿ができる体制にしたいと思えます。
しかし、何分にも口べたで、情報収集能力に欠けています。その点は、新役員の方にも協力していただいて、紙面をつくっていきたいと思いますので、会報担当の後藤さんともどもよろしく願います。

ミニコミ情報

ついに出了 これ一発で
あなたも備後のことなら
おまかせ!!

会員初の怪挙(?)
本当に売れる本が出た。

わが会の田口義之君の著書「備後の武將と山城」(芦田川文庫3)が、予想に反して(?)書店売切れ続出中との情報が、ある筋(本人)より送られてきた。書店にない場合は、申出て下さい、在庫(?)をお返しします。

(冗談ぬきで素人の私にもよくわかる様に書いてあり、又今までの会の活動で行った色々な所もあり、たのしく読める本ですから、皆様も一度読んでみて下さい。)

小早川氏ゆかりの 文化財をたずねて(Ⅰ)

駅家町 高橋

二月の例会は、小早川氏ゆかりの、文化財めぐりをする事になりました。今回は、昨年三月に、高山城跡を探訪しましたが、その続編であると思えます。

前回のとき名ガイド役を勤められた、探訪の会の会員であり、役員の方の末森清司氏に、此の度も講師として活躍して頂きました。

小早川氏が、沼田荘の地頭職として来住して、中世鎌倉時代より残して来た、数々の文化財のうち、今回は、米山寺・楽音寺・仏通寺をたずね廻りました。

最初に米山寺へ参詣し、ここでは寺の東方に二十基の宝篋印塔があり左手一番奥の立派な宝篋印塔は、国の重要美術品、又小早川隆景の墓と云われる、宝篋印塔は、県の重要文化財として、指定されて居ります。その代歴代の人達の墓石を安置してありました。

米山寺の宝蔵庫を、御任職のご好意に依り、特別に開いて頂き、寺に伝わる数々の遺物を拝観させて頂き

ました。

中でも「絹本着色小早川隆景像」は、国の重要文化財に指定されており、以前は国宝であったと説明を聞きました。阿弥陀如来の立像も仲々立派なもので、藤原期後半のものとか、表情もおだやかで、慈悲にあふれたものでした。その他古文書であるとか、遺品・遺物等が大切に保存されていきました。

次に楽音寺へ参詣しました。頂いた資料によると、小早川氏が来住する以前に沼田荘を支配していた沼田氏一族の氏寺であったが、戦火に焼かれ、現在残っているものは、本堂と大師堂及び本尊の薬師如来像のみとの事です。本堂の柱は創建当時のものが使用しており、又安置されている如来像は由緒あるものとの事です。何とかこれ等の立派な遺物を、後世に残して行く努力はされていると思えますが、一人でも多くの人が先人達の残してくれた、立派な遺物に関心を向け、後世に伝える事が、今を生きる我々の務めではないかと思えます。

午後は仏通寺に参詣し、仏通寺派大本山の風格を肌で感じました。資料館の館長さんの説明も、興味深く聞かせて頂きました。

その他往路、帰路の車中で、小早川氏にまつわる数々の遺跡等も、明快地詳しくガイドを頂き、有意義な一日を過ごしました。

終りになりましたが、末森清司講師には、始めから終りまで、名調子で、分り易く、ユーモアも混えながらガイドして頂き、有難う御座いました。

又今回の例会を企画、準備、資料作りと大奮闘下さった、役員の皆様方に感謝致します。次回も、今から楽しみにしています。

小早川氏ゆかりの 文化財をたずねて(Ⅱ)

H・K

二月一日、楽しかった一日を有難うございました。寒い朝ベッドの中から出るのが苦手の私は、午前八時集合、に二の足を踏んでいた。それでも折角の機会だからと、参加させて戴き、往路の三原の国道を走るバスの中、末森先生の「こゝは海、今皆さん舟で目的地へ向っていると思っして下さい。」の言葉に「あゝ、今日は来てよかった」と感動しました。もし、主人とのドライブで同じコースを辿ったとしても海だった昔に想

いを馳せる事はないでしょう。戦国の昔に一步踏み込んだようでした。山峡にシンシンとねむる武将達の墓。荒寥として朽ちかけ、昔を忍ぶよすがもない歎喜山楽音寺。(その名前が反って寂しさを強くする)

冬枯れの静寂の仏通寺。山かげに点在する羅漢や大仏。

それにもまして私は、霜柱の凍土を踏む足裏のギンギンとした感覚や、小早川隆景の書。雪舟の襖絵の素晴らしさに感動、今更ながらいにしえ人の、しっとりとした教養豊かな日常と、現代の無味乾燥の機械文明との落差を感じました。(これを進歩と考えず落差と受けとるのは、現代について行けなくなった証でしょうか。)

武将達の栄枯盛衰の嵐の下、只管土に這いつくばって生きて来た農民の強かさ、を見るおもしろい、広々とどこまでも続く切り株を残した田圃。会本来の目的とは、いささか逸脱した感慨を胸に帰途につきました。翌日は朝から雪まじりの水雨の降る寒い日となり、炬燵の守りをしながら、戴いた資料を読み返し、昨日を反芻した事でした。

古墳部会情報

昨年十一月九日より始めた測量調査ですが今までに四回の下準備を含めて計六回実施して来ました。草木の伐採には思わぬ時間がかかり、人手不足も手伝い、なかなか捗りませんでした。その為に城郭部会の方々を煩わせたり、時には一人だけでナタと鋸と大きなハサミを持ち現地に

入り、鳥のさえずりを聞き乍ら汗をかいた事もあり、又、前夜から朝まで友と酒を酌み交し、完璧なまでの二日酔状態でも一緒に下草刈りを手伝ってくれた方もあり、そして、手伝いを要請すると快諾下され黙々と手を動かしてくれた方もあった。

この様に会員の方々の協力に支えられて十二月二十一日にはようやく平板とレベルの脚を墳丘に立てることが出来ました。この日は北風にふるえ乍ら後円部と言われている所を中心にポイントを落して終了しました。一月十五日の二回目の測量は前方部まで進みましたが、ほんの少しの誤差ですが、いいものを残したいが為にその日落したポイントは全て消して次回に再度やり直す事にして終了しました。ところが、測量調査を進

めて行くうちに、周辺の地形と更に露出させる必要が出て来た為、少なくとも、もう二〜三回は周辺の草木刈りに時間をかけなくてはならぬなりました。

この様な状況ですので、当初予定していた本年度二基の測量調査を当古墳一基とし、期間を大幅に延ばし、五月頃まで集中的に詳細に調査する事になり、現在はまだまだ時間が必要な段階です。

尚、ガイドブックの方は、少し遅れておりますが、現在はまだ最後の段階で、三月末までには完成させる予定でおります。

福山市坪生町紹介

三月例会として福山市坪生町を予定している。坪生町は、その名の通り古代条理制の名ごりて平安時代の頃より室町時代の頃まで藤原 関家、九条家の直轄地であった。

戦国時代、石見国、今の島根県大森銀山が開発されてより又、江戸時代の始め笠岡に代官所が置かれて以来、石州街道往來の町としてにぎわいを見せていた。時移り時代が変わり近年日本鋼管が大門沖に進出するにいたり開発と云う名のもとに町の様子

も一変する現在その奥座敷としての坪生の町を歩いて見ませんか。

- ・石州街道
- ・清水丸古戦場
- ・土居大塚遺跡
- ・真中八幡社
- ・身変わり地蔵
- ・神森神社
- ・仁井山城跡
- ・西楽寺
- ・南山城跡
- ・四ツ堂

の中から (後藤匡史)

例会ニュース

◎三月例会「坪生史跡めぐり」

参加要項

期日 三月二十二日(日)

午前八時三十分 集合

集合場所 福山駅前釣人像前

会費 一、〇〇〇円(会員)

一、五〇〇円(非会員)

講師 後藤匡史さん

弁当持参、雨天中止

詳細は前記のとおりです。

◎四月例会ご案内

〔仮題〕城下町福山を求めてーお城と城北のお寺・神社をめぐるー

担当者 種本実・森紀子・吉田和隆のゴールデントリオノ

日時 四月五日(日)

「明治以後破壊され、空襲で焼かれ、戦後の都市開発で城下町の面影をほ

とんど失なつた福山のお城と城下町。今回福山の原点である福山城をていねいに探り、城背の防衛拠点でもあった、水野氏ゆかりの城北の寺と神社を訪ねます。

参加した人が往時の福山の姿を自分なりにイメージしてもらえたら幸いです。詳細はまたご案内します。」

新入会員紹介

CONFIDENTIAL

備陽史探訪の会

個人情報が含まれるため

掲載できません。

今後ともよろしくお願いします。

編集後記

今回初めての担当で、足りない点もありますが、皆様の協力で、より良くしたいのでよろしく願います。